|--|

事務事業評価票

所管部長等名 商工観光部長 山本 道弘 所管課·係名 観光振興課 交流係 課長名 稲本 俊一

評価対象年度	平成23年度

(Plan) 事務事業の計画

「主なる事業の執行状 況調」における件名又 事務事業名 日奈久温泉観光振興事業 日奈久温泉観光振興事業 は事業名 -般会計 会計区分 日奈久温泉観光振興事業 26 — 01 — 34 予算の事業名

事業コード(大一中一小) 34 基本目標(章) 第4章 豊かさとにぎわいのあるまち

施策の体系 (八代市総合計画の 施策の大綱(節) 【政策】 ③にぎわいのある観光のまちづくり

実施計画における位置づけ) 施策の展開(項)【施策】 ①観光の振興

具体的な施策と内容 (1)観光資源の整備・活用

根拠法令、要綱等

〇 全部直営 実施手法 (該当欄を●) 〇 その他(

〇 一部委託 ● 全部委託

法令による実施義務 〇 義務である (該当欄を●)

● 義務ではない

事業期間 開始年度 平成22年度 平成25年度 終了年度

			Do)事務事業の実施
		対象(誰・何を)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)
事務事業	目的	ツアー催行者(旅行業者、旅行代理店) ツアー参加者	ツアー造成の促進による入り込み客数の増加を図り、観光地日奈久の再生、活性化につなげる。
の概要	内容 (手段、手法 等)		F産品(500円相当)をツアー参加者に提供。
	業開始時点からこ までの状況変化		平成21年に温泉センターの建替え、日奈久ドリームランド・シー・湯・遊」の整備を行った。ま 24年4月には日奈久ゆめ倉庫(日奈久温泉観光案内所併設)がオープンした。

化

コスト・成果指標の推移 単位 <u>22年度決算 23年度決算 24年度予算 25年度見込 26年度見込 27年度見</u>												
						単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込
	総事業費				千円	2,262	2,439	3,950	2,900	0	0	
		事第	養(直接経 費	費)		千円	1,212	1,389	1,500	1,500	0	0
			国·県支出金	È		千円						
		財	使用料•手数	枚料		千円						
コス		源内	市債			千円						
ŀ		訳	その他()	千円						
			一般財源			千円	1,212	1,389	1,500	1,500		
		概算	算人件費(正規	現職	員)	千円	1,050	1,050	2,450	1,400	0	0
			正規職員		従事者数	人	0.15	0.15	0.35	0.20		
			盬	時期		人						
		ŧ	旨標名		指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画
(もたらそ	1	ツア一造成の促進による入り込み客数の増加を目的としているため指標として設置した。			件	30	13	35	35			
成果指標を対しています。	数0		数0	'一造成の促進による入り込み客 D増加を目的としているため指標と 設置した。	Α	946	439	600	600			
の数	〈記	述欄	〉※数値化で	きな	い場合							

				(Check) 事務事業の	自己	己評価			
		【計画上の位置付け】	Α	結びつく		(現状分析等)			
	1	事業の目的が上位政策・施策に結び	В	一部結びつく	Α	日奈久温泉の活用は、市観光振興計画の重点プロジェクトにも位			
		つきますか	С	結びつかない		置づけており、市が関与する必要性は高い。 また、本事業による日奈久温泉へのツアー催行促進は、歴史・景			
+ ** + .		【市民二一ズ等の状況】	Α	薄れていない		観など観光資源の活用や温泉旅館の利用増進のほか、日奈久温泉			
事業実施の 妥当性	2	市民ニーズや社会状況の変化によ	В	少し薄れている	Α	センター「ばんぺい湯」など市が整備した施設の利用増進にも繋がる ものであり、旅館等の観光関係者と市が連携して取り組むべき施策			
214		り、事業の役割が薄れていませんか	С	薄れている		である。			
		【市が関与する必要性】 市が事業主体であるあることは妥当 ですか(国・県・民間と競合していませ	Α	妥当である		但し、継続して実施する場合は、観光関係者など民間を主体とした 事業手法を検討する必要がある。			
	3		В	あまり妥当でない	Α				
		んか)	С	妥当でない					
		【事業の達成状況】	Α	順調である		(現状分析等)			
	1	成果目標の達成状況は順調に推移し	В	あまり順調ではない		平成22年度は目標数(ツアー参加者1,000人、ツアー催行30本)を概ね達成したが、震災の影響もあり平成23年度は低調となった。利用			
活動内容の		ていますか	С	順調ではない		は達成したが、長灰の影響ものり平成23年度は低調となった。利用 促進を図るとともに、より高い効果を得るため、宿泊を伴うツアーを			
有効性		【事業内容の見直し】	Α	見直しの余地はない		誘致するよう内容の見直しや各施設との連携が必要である。			
	2	成果を向上させるため、事業内容を見	В	検討の余地あり	С				
		直す余地はありますか	С	見直すべき					
		【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入な	Α	できない		(現状分析等)			
	1	氏间安託、指足官垤有制度の導入なる。 どにより、成果を下げずにコストを削	В	検討の余地あり	Α	事業開始時から民間委託を導入し効率化とコスト削減を図っているが、旅館や店舗など利害関係者の負担についても検討の余地があ			
		減することは可能ですか	С	可能である		る。			
実施方法の 効率性		【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業と	Α	できない					
	2	の統合・連携によりコストの削減は可 能ですか	В	検討の余地あり	Α				
			С	可能である					
	3	非常勤職員等による対応その他の方 法により、人件費の削減は可能です	Α	できない	Α				
			В	検討の余地あり					
			С	可能である					
		【受益者負担の適正化】	Α	見直しの余地はない					
	4	受益者負担に見直しの余地はありま すか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃	В	検討の余地あり	В				
		止)		見直すべき					

	(Acti	on) 事務事業の方向性と改革改善							
	〇 不要(廃止)	(今後の方向性の理由)							
	〇 民間実施		、費用対効果が得られるよう、実績や効果を検証し ・						
今後の方向性 (該当欄を ●)	○ 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等)	ながら内容の見直しを図っていく必要がある	5.						
	● 市による実施(要改善)								
	〇 市による実施(現行どおり)								
	〇 市による実施(規模拡充)								
	今後の改革改善の取組と	、もたらそうとする効果			改革	改善に。	はる期待に	成果	
	今後の取組として、①宿泊につながる内容への								
	大、③オリジナルサービスなど旅館の参加を行 また、事業を継続する手法として、旅館等の観)				コスト				
	費用負担についても検討を行う。		`		削減	維持	増加		
	なお、平成24年度は、①おもてなし等の品質向. 遣、②旅館による着地型旅行商品づくりを支援				向		0		
	し、旅館と市が協働して日奈久観光振興に取り				上		O		
			成	維					
			果	持					
				低					
					下				
			'		-				1

外部評価の実施 有:外部評価(市民事業仕分け)	実施年度	平成23年度
-------------------------	------	--------

決算審査特別 委員会における 意見等

(委員からの意見等)